

芸

術

■ 音 樂 I

■ 美 術 I

■ 書 道 I

芸術

音楽Ⅰ	選択必修科目 3 単位	2・3・4 段階
担当者：	教科書（出版社）：Tutti+ 音楽Ⅰ（大修館書店）	補助教材等：学習書
課題（レポート）提出回数 9 回	テスト回数 3 回	面接授業（スクーリング）出席時数 12 時間以上

1 「音楽Ⅰ」とはどんな科目か？

（１）音楽Ⅰの目標

- ・ 芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。
- ・ 感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

（２）どんなことを学習するのか

- 理論を理解し、読譜力をつけ、視唱（奏）力を身につけます。
- 歌曲の曲種に応じた発声の工夫をし、歌詞及び曲想の表現を考える力を身につけます。
- 楽器の体験と奏法の工夫をし、曲の構成及び曲想の把握と表現力を高めます。
- 合唱、合奏における表現を工夫する力を養います。
- 音の響きを感じて、イメージする世界の広がりを育てます。

（３）音楽科からのメッセージ

- 各単元の「学習のねらい」を踏まえ、学習を通して身につけたい音楽的能力はどのようなものであるかを具体的に把握しながら取り組むことが大切です。
- 音楽的能力を高めるためには能動的に「音楽する」ことが効果的です。特に歌曲は声を出すことに慣れることが大切です。積極的に声を出しましょう。また、器楽は継続することが大切です。目標をもって取り組みましょう。
- 授業中は受動的にならず一緒に考え、発言し、取り組み、共に音楽することを心がけましょう。
- レポートは作成するだけでなく自分自身でも理解し、関連付けて覚えるよう努力しましょう。
- 学習全般を通し、理解・表現することの大切さを感じ、音楽することの喜びを味わいましょう。
- 授業等で取り上げた作品だけでなく、他の作品にも積極的に出会うよう心がけ、作者の心情を考えるとともに、感性を高め創造性豊かな生涯学習につなげていただけることを期待しています。

2、学習の進め方

（１）レポート・テスト

- 注意** ・ 提出されたレポートは、添削後に、A. B. C. D（Dは再提出）をつけて返却します。
- ・ 確実に単位修得をするためには、1次テストを、遅くとも10月上旬までに合格することが望ましいです。
 - ・ レポート8、9は、まとめ学習であり、丁寧に仕上げる必要があるので、レポート7と一緒にレポート8、9を渡します。2次テストを受ける前までに、計画的に作業をすすめ、レポート7、8、9を提出してください（提出は1通ずつ）。遅くとも12月中旬に提出することが望ましいです。
 - ・ なお、3次テストの詳細(10～1月実施予定)については別途連絡します。

レポート番号	テスト	内 容	備 考	レポート番号	テスト	内 容	備 考
1	1 次	楽譜の成り立ち① (音楽のしくみ)	楽譜を読む上での 基礎的な 知識です	6	2 次	声の世界と音楽鑑賞（感想）	
2		楽譜の成り立ち② (音楽のしくみ)		7		楽器について知る	
3		楽譜の成り立ち③ (音楽のしくみ)		8		西洋音楽史を知る	
4		楽譜の成り立ち④ (音楽のしくみ)		9		日本の音楽史を知る	
5		楽譜の成り立ち⑤ (音楽のしくみ)			3 次	実技テスト（歌）	既習曲

(2) スクーリング

スクーリング回数	月	日	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 (2 時間)			声を出す 楽譜の仕組み①	話し声と歌声、響きの違いを感じる 楽譜の成り立ちを考える
2 (3 時間)			和楽器に触れよう	日本の伝統音楽の流れ・楽譜・音を体験し、洋楽との違いを感じ取る
3 (2 時間)			歌唱・楽譜のしくみ②	発声の基本を考える 音符・休符について学習する
4 (2 時間)			歌唱・楽譜のしくみ③	音楽の三要素から“律動”について学習する
5 (2 時間)			歌唱・楽譜のしくみ④	音楽の三要素から“旋律”について学習する 複数曲を比較し、曲想の違いを感じ取る
6 (2 時間)			歌唱・楽譜のしくみ⑤	音楽の三要素から“和音”について学び、響きのイメージを感じる また考えて表現する
7 (1 時間)			歌唱	曲想・流れに即した発声・発音等、意識して歌う
8 (2 時間)			ヴァイオリンを弾こう①	各部の名称と持ち方、音の出し方を知る
9 (2 時間)			ヴァイオリンを弾こう②	二長調・イ長調の音階と曲を弾こう

3 評価の方法

以下の観点から学習内容を評価します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容		評 価 方 法
知識・技能	歴史を考慮し、表現に役立てるための基礎力・理論や楽語を理解しているか 歌唱や楽器の演奏法を習得出来ているか	報告課題および試験、実技で評価する
思考・判断・表現	楽譜を正しく読み取り、声や楽器を通してイメージを持って音を感情表現へと繋げているか	報告課題および実技試験、面接指導で評価する
主体的に学習に取り組む態度	感情表現の手段の1つである音楽の楽しさ、大切さを感じ取り、知識や技術の習得と向上を目指し、積極的に音楽しているか	報告課題への取り組み、面接指導での態度、出席状況で総合的に評価する

芸術

美術Ⅰ	選択必修科目 3 単位	2・3・4 段階
担当者：	教科書（出版社）：新・高校生の美術1（日本文教出版）	
課題（レポート）提出回数 9 回	テスト回数 3 回	面接授業（スクーリング）出席時数 12 時間以上

1 「美術Ⅰ」とはどんな科目か？

（1）美術Ⅰの目標

- ・様々な作品制作を通じ、思考・観察・創意工夫から美術的表現を探究していく。
- ・幅広く基礎的な知識と技術を身につけ、美術やデザインの効果を日常生活に生かす力を養う。
- ・鑑賞することで、文化的創造の礎となる感性・創造力を身につける。

（2）どんなことを学習するのか

- 映像メディア表現・デザイン・絵画の各分野から作品を制作し、それぞれに必要な発想力や思考力を養います。
- 基本的な知識と技術を身につけて、自ら表現する能力を培います。
- 鑑賞では、作品を観察する事で制作者の視点や作品の成り立ちを学んで自己の作品に生かす力を培います。

（3）美術科からのメッセージ

- スクーリングで各レポートの取り組み方を説明します。
- 制作に時間のかかるレポートもありますので、計画的に進めるようにしましょう。
- あまり難しく考えず、要点を押さえて楽しく取り組んで下さい。

2 学習の進め方

（1）レポート・テスト

- 各レポート・テストの表紙は、スクーリング時に配布します。課題文をよく読み、要点をしっかりと理解してから、取り組んでください。内容にそぐわない提出物は評価できないことがあります。
- テストはレポート形式です。レポートと同じ様に提出して下さい。
- 制作に時間がかかるレポートがありますので、順番は気にせず、完成したものから提出して下さい。
- レポートで使用するB4ケント紙は、スクーリング時に配付しています。それ以外は、職員室で配布しています。B4サイズのクリアファイルがあると紙の持ち運びに便利です。

《提出の仕方》

- ・レポート2・3、テスト1以外の作品は、郵送せず、直接持ってきて、職員室に提出してください。
- ・表紙は必ず添付。生徒番号・名前・提出日などを明記し、マスキングテープ等で貼って提出して下さい。
- ・作品は丸めず提出してください。返却は学習室の返却机の上に、返信用封筒をつけて置いておきます。登校時に各自受け取って下さい。
- ・レポート7で作成した立体をレポート8でデッサンしますので、レポート7・8は同時に配布します。その為、レポート7・8を同時に提出して構いません。
- ・提出されたレポートは、添削後に、A、B、C、D（Dは再提出）をつけて返却します。

《注意》確実に単位修得するためには、1次テストを10月中に、2次テストを12月中に合格することが望ましいです。計画的に作業を進めるようにしましょう。

☆ レポート

レポート番号	テスト	内 容	備考	レポート番号	テスト	内 容	備考
1	1 次	鑑賞・模写	P8～25	7	3 次	立体造形	P84.85
2		写真	P92～95. 146. 147	8		素描1	P131 ～135
3		アニメーション	P96. 97. 148. 149	9		素描2	P128 ～131
4	2 次	色彩基礎	P152～154				
5		レタリング	P72～75. 149				
6		色彩構成	P142. 143 .150～154				

☆ テスト

テスト	表題	参考テキスト	条件・備考
1次テスト	鑑賞 映像について	教科書 P96. 97. 145	文章レポートを作成。
2次テスト	デザイン	教科書 P66～79	アクリルガッシュなど
3次テスト	素描	教科書 P128～131	鉛筆（2H・H・HB） 消しゴム

（２）スクーリング

2時間を通して行われるので、欠かさず受講することが望ましい。指定した用具を持参してください。

回数	月 日	学習内容	学習のねらい	用意するもの	レポート
1 (2時間)		美術鑑賞 模写	美術全般・作品鑑賞・美術の歴史などを学習する。模写の手順について学ぶ。	鉛筆 消しゴム	レポート1
2 (2時間)		模写 メディア表現	模写を実習。映像メディアについて学習する。写真の基礎を学ぶ。	アクリルガッシュ 筆 鉛筆 消しゴム	レポート2
3 (2時間)		アニメーション	アニメーションについて触れ、時間的な表現について考える。	鉛筆 消しゴム 色鉛筆（希望者）	レポート3
4 (2時間)		色彩とデザイン	色彩の基礎について学習する。	筆記用具 定規 アクリルガッシュ 筆	レポート4
5 (2時間)		レタリング	文字の基礎を知る。 文字をデザインする。	鉛筆 消しゴム 定規	レポート5
6 (2時間)		色彩構成	イメージを形・色で視覚的に表現する。	鉛筆 消しゴム 定規	レポート6
7 (2時間)		立体造形 鉛筆で描く①	平面である紙から立体を作る。 鉛筆の特徴を生かしながら描く。形を正確にとる。	鉛筆（2H・H・HB） 消しゴム のり	レポート7 レポート8
8 (2時間)		鉛筆で描く②	観察して描く。	鉛筆 消しゴム	レポート9
9 (2時間)		篆刻	はんこを作る。版画、デザインの考え方を学習する。	鉛筆 消しゴム	

3 評価の方法

以下の観点から学習内容を評価します。

評価の観点および内容		評価方法
知識・技能	課題の内容・特性を理解できているか。技法を習得できているか。イメージを適切かつ明快に表現しているか。執着をもって表現しているか。	報告課題（成果物）および試験（課題作品）で評価する。
思考・判断・表現	作品の特性に応じて適切な手法を判断し、計画的な思考が来ているか。	報告課題（成果物）および試験（課題作品）、面接指導で評価する。
主体的に学習に取り組む態度	美術を自分や社会の範疇にあるものと捉え、表現やその内容に関心を持ち、意欲的に学習・研究しているか。	報告課題への取り組み、面接指導での態度で評価する。

芸 術

書 道 I		選択必修履修科目	3 単位	2・3・4 段 階
担当者：		教科書（出版社）：書道 I（東京書籍）		
課題（レポート）提出回数 9 回	テスト回数 3 回	面接授業（スクーリング）出席時数 12 時間以上		

1 「書道 I」とはどんな科目か？

（1） 書道 I の目標

- 中学校までの書写は、文字を正しく揃えて書くことでしたが、高校の書道は芸術科に属しています。
- ・ 書道の幅広い活動を通して、書を愛好する信条を育てる。
 - ・ 書に親しむ活動を通して感性を豊かにし、書写能力を育てる。
 - ・ 自己を主体的に育てる能力と書の美を鑑賞する基礎的な能力を育てる。

（2） どんなことを学習するのか

- 書は、漢字や平仮名を素材として筆者の意図や感動を表現する芸術です。
- 書道の基礎的な知識の学習を基に、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書などについて理解を深めていきます。
- 歴史ある古典の臨書を通して、さまざまな書風を学び、創造的な表現の展開をめざします。

（3） 芸術科からのメッセージ

- スクーリング時にレポートについて学習するので是非出席し、その日のうちに復習し、レポートを仕上げてほしい。
- テストは、1 次テストはレポート 1～3、2 次テストはレポート 4～6、3 次テストはレポート 7～9 の課題になります。
- レポートの添削結果をよく見て、練習を重ね、テスト提出をして下さい。

2 学習の進め方

（1） レポートやテスト

①レポート：提出されたレポートは、添削後に、A. B. C. D（Dは再提出）をつけて返却します。

②テ ス ト：30 点以上合格。不合格の場合、同日に再テストを受けることはできない。

レポート番号	テスト	内 容	備 考	レポート番号	テスト	内 容	備 考
1	1 次	文房四宝 「名前」～自分の名前を小筆で書く（楷書と行書）		7	3 次	隷書の学習「遭全碑」	
2		唐の四大家の特徴を知る 「九成宮醴泉銘」		8		仮名の学習 「平仮名の単体」 「蓬莱切」	
3		「孔子廟堂碑」		9		作品を作ろう 自分の「一作」を制作	
4	2 次	「雁塔聖教序」					
5		「自書告身」					
6		行書の学習「蘭亭序」					

(2) スクーリング

スクーリング 回数	月	日	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 (1時間)			文房四宝について	・ビデオを使用し、用具の紹介
2～3 (2時間)			レポート1 自分の名前を楷書と行書で書く。	・生活の中で必要とされる自分の名前を楷書と行書で書けるようにする。
4 (1時間)			レポート2 「九成宮醴泉銘」	・楷書の特徴や用筆法を学び、字形と線質がどのように関係するかを理解する。 ・各古典の美しさと特徴を理解し鑑賞して表現する。
5 (1時間)			レポート3 「孔子廟堂碑」	
6 (1時間)			レポート4 「雁塔聖教序」	
7 (1時間)			レポート5 「自書告身」	
8 (1時間)			レポート6 「蘭亭序」	・行書の特徴、用筆法を学び表現する。
9 (1時間)			レポート7 「遭全碑」	・隸書の字形、用筆法を学び表現する。
10～11 (2時間)			レポート8 仮名、単体の学習	・仮名独特の基本的用筆法を学ぶ。
12～13 (2時間)			「蓬萊切」	・連綿、変体仮名を学び、文字と余白の関係を理解し、全体構成を考える。
14～17 (4時間)			レポート9 作品制作	・学習してきたことを通して、自分の好きな言葉、文字を工夫して表現する。

※スクーリングに出席できると、レポートは理解できます。

3 評価の方法

以下の観点から学習内容を評価します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容 (評価規準)		評 価 方 法
知識・技能	書の表現の方法や形式について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統を基に効果的に表現するための技能を身に付けている。	報告課題（提出作品）および試験（課題作品）で評価する。
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりできている。	報告課題（提出作品）および試験（課題作品）、面接指導で評価する。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養っている。	報告課題（提出作品）への取り組み、面接指導での態度（スクーリング出席回数を含む）で評価する。